

平成24年度学校活性化プロジェクト推進事業実施報告書

学校番号	39	学校名	東濃高等学校	全日制・定時制・通信制
------	----	-----	--------	-------------

プロジェクトの名称	外国人生徒支援プラン
-----------	------------

<p>1 活動の概要</p> <p>※活動の状況が分かる写真と説明を別紙様式2-3に添付すること</p>	<p>①放課後に部活動の一環として日本語補習を開講した。外部機関に日本語指導の講師派遣を依頼し、敬語や語彙を中心に、日本語検定取得や、スピーチコンテスト参加を目指して、週2回実施した。</p> <p>②「先輩の話を聞く会」を開き、2名の講師を招いて来日理由・日本の学校での体験・日本での困難をどう乗り越えたかについてお話しを伺った。</p> <p>③小学生用の国語辞典を購入し、日本語の習得のために、分からない語句をすぐ調べるなど、主に国語の授業で役立てた。</p>
<p>2 目標達成度</p> <p>※評価の観点（各種指標）の集計結果</p>	<p>①外国人生徒の日本語能力には個人差がある。学校の勉強だけで手一杯でなかなか日本語の補習に残ることができなかった。年度の前半は3年生の日本語能力試験1級を取得した生徒を中心に学習したが、1年生はそれに圧倒されて、なかなか補習に参加できない状況が続いた。それで最近になって参加者が増えた。主にスピーチのつどいの作文の作成に関わってであったが、普段口語の日本語を聞き流している彼らに、それを文章にとどめた形で書き表すことによって正しい日本語が学べることに気づかせることができた。</p> <p>日本語補習は週2回、年84回実施した。途中でサッカー同好会ができたため、彼らにも短い時間だが、『声に出して読みたい日本語』を使って強制的に学習させた。日本語をただ声に出して読むだけだが、それがなかなか彼らにとっては難しく、何度もやっていくことで発話することに自信を持たせることができた。現在は日本語検定取得を目指して、主に敬語を学習中である。</p> <p>日本語検定の結果 15名受検(3年4名、2年11名) 4級準認定2名、5級準認定2名、6級認定1名、6級準認定4名。</p> <p>②「先輩の話を聞く会」を開き、1年生の外国人クラス全員14名が参加した。また、2年生の外国人生徒も希望者のみとしたが多数参加した。同じ境遇を体験する方の話を聞いて涙を浮かべながら聞いている生徒もみられた。</p> <p>③1年国語総合の授業で国語辞典を使って授業をしていただき、分からない言葉を辞書で調べるという習慣がついてきた。</p>

3 成果の分析	<p>①補習は昨年度と同じ講師の指導を受けることができ、3年生の1人が、日本語能力試験1級を取得できたことが大きな成果といえる。何よりも彼女が自分の将来を切り開き、社会にとって有益な存在となれることを願うようになった。</p> <p>②先輩の話を聞く会について 今年度は、NPO多文化共生マネージャーの時光さんと、昨年の本校ポルトガル語支援員の方からお話を伺った。時さんは全国を周って講演してみえるだけあって、生徒に合った話をしていただけた。昨年度の支援員の先生は特に2年生が集中して聞いていた。また、時さんは「あまり良いとはいえないけど、負けたくないから今もこうして日本で頑張っている。」と言われた言葉が生徒の心にも残ったようである。</p>
4 課題の分析と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・運動系の部活への参加、アルバイト、家庭の事情で日本語学習がおろそかになる傾向は今年度も変わりがない。ただ、部活動の先生の協力があれば、日本語に少しでも目を向かせることができることも分かった。 ・日本語検定取得を目標としていきたいが、定期的な学習がやはり必要である。放課後の補習、その他の時間でも日本語を学ぶ機会を作っていきたい。 ・講演会を1年生の外国人クラスでやれたのはとても良かった。年度の終わりになってしまったので、もっと早い段階でやれば良かったのかもしれない。やはり生徒は、自分と同じ立場の人の言うことを聞く傾向があるので今後も外部の方々と積極的に交流していきたい。
5 生徒の感想 ・意見	<p>①補習について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敬語の勉強ができて役にたった。(2年男子) ・「スピーチのつどい」の作文を書くのを助けてもらった。(1年女子) ・日本語は分かると思っていたが、まだ分からないことも多いことが分かった。(1年女子) <p>②先輩の話を聞く会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師の先生は、いっぱい悔しさがあったけど、すごく頑張ったと思います。(1年女子) ・大学へ行くのがそんなに怖くないと思います。日本の文化は難しいけれど、一生懸命頑張っていきたいです。(1年女子) ・先生と同じようになりたいから、私は他の人に負けないように頑張っていきます。(1年女子) ・私も中学校の時クラスにフィリピン人がいなかったし、友だちもいなかったです。私もやりたいことがあるけどやらなかったです。たくさん悔しさがあって、時々泣いていることもありましたが、でも、いろいろなことを覚えることができました。外国人クラスでうれしいですが、2年生になったら、今度こそ、自分は自信を持って友だちを作りたいです。(1年女子) <p>担当教職員の意見</p> <p>①昨年度と同じ講師に指導していただき、補習に関してはスムーズに引き継ぎを行うことができた。生徒の実態に合わせていただき、また、生徒の日本語能力に合わせた絶妙な日本語指導をしていただけた。前は来ていなかった生徒も段々興味を持って来るようになった。日本語が分かるようになることは楽しく、役に立つなど少しでも感じて欲しい。そうしたことに気づくことが、将来いつか色々なことを学ぶきっかけになる。講師の先生は様々な側面から、あの手この手を使って教えている。日本語の指導はやはり専門性が大切だと思う。</p>

		<p>②日本の学校を卒業した先輩方からお話を伺って、私自身、彼らの将来性に気づくことができた。現在、国際感覚を持った人材が重要視されていて、そういった人材を1人でも多く育てていくことが大切なのだと分かった。講師の先生方はそういった厳しい目を通り抜けて来られた方々で、本当に貴重な方々である。生徒には、自分もここまで努力すれば、日本人と対等にやっていけるということに気づいて欲しい。</p>
	<p>その他、プロジェクト参加者の意見等</p>	<p>特記事項なし。</p>

平成24年度学校活性化プロジェクト推進事業活動状況

学校番号	39	学校名	東濃高等学校	全日制・定時制・通信制
------	----	-----	--------	-------------

プロジェクトの名称	外国人生徒支援プラン
-----------	------------

活動の概要

写 真 等	説 明
	<p>通年実施 放課後日本語補習 作文コンクールなどに応募する作品を作った。 日本語講師 近藤利恵先生 岐阜県高校生スピーチのつどいで銀賞・特別賞に選ばれた。</p>
	<p>2月21日実施 先輩の話を聞く会 講師：時光さん 大学から日本に来て、日本語を学び、今はNPO多文化共生マネージャーをしてみえる。</p>

学校関係者評価委員の意見

- ・外国人生徒が授業を受けている様子を見たが、大変前向きな姿だった。身だしなみもしっかりしていた。日本語補習を継続していることが外国人生徒の学習意欲の向上につながっていると感じた。
- ・日本語検定や漢字検定にチャレンジさせ、自信を持たせて欲しい。それが外国人生徒の学力向上につながるだろう。今後も、外国人生徒のために特別な支援を続けていただきたい。